

## インド

### 「津被災者の身体障がい者の若者、孤児の職業訓練と経済的自立支援事業」 (2年度)



ナガパッティナムでは 5 千世帯の住宅再建設が終わらず、このような仮設住居に住んでいる



2年目に購入された車。1日2往復する



国際 NGO の支援で完成間近の住宅。



家が遠く、公共交通機関を利用することが難しい訓練生が優先的に車を利用する



海岸沿いには魚を干す光景があちこちに見られる



ナガパッティナムの町の中心



初年度の訓練生カライヴァニさん（21）は訓練修了後にミシンを購入し、自宅でビジネスを始めた



初年度訓練生のヴィネシュさん（22）。現在、訓練生が運営するろうソク販売店舗のリーダー



両親と。父親（右）は津波で小さな店を流され、現在は日雇いの農作業労働で 1 日 100 ルピー（292 円）で生計をたてている。



ろうソクの鋳型



彼女の村では縫製ビジネスをやっているのは彼女だけである。近所の住民ら（右）が布地を持ってきて注文する



さまざまな色、形のろうソクづくりを教えている



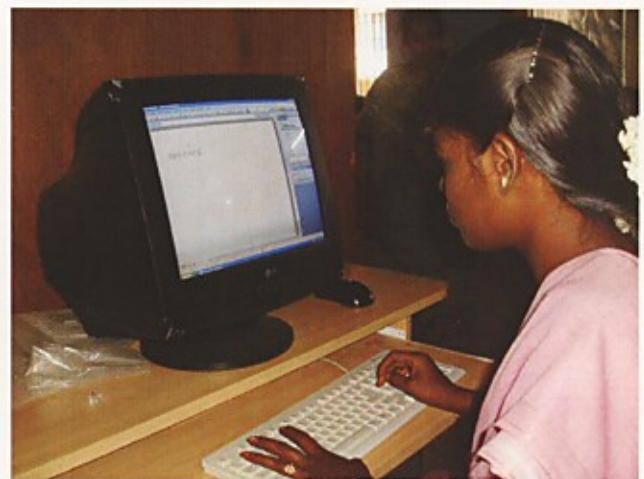
ナガパッティナム中心部から車で約30分のところにあるヴェランカンニ教会は、キリスト教巡礼者が国内外から集まる



パソコン操作トレーニングで、ファイル保存の仕方について講義を受ける訓練生たち



教会前の参道には、みやげ物店のほか、祈りを捧げるためのろうソク店舗がたちならんでいる



ワードで履歴書を作成する訓練生のカストゥリ・バイさん（20歳）



訓練生が共同運営する店舗。1キログラム400ルピー（約1,169円）で販売。外部からも仕入れる



彼女の家は8人家族で、父親は日雇い労働をする土地なし農民。母親は「娘は、近所の子どもたちに勉強を教えている、自慢の娘です」と話した